

2026年5月期第2四半期 決算補足説明資料



株式会社ジーデップ・アドバンス



目次

- 会社概要
- 当社の強みと特徴
- 2026年5月期 第2四半期決算
- APPENDIX
 - 業績補足
 - 市場状況分析
 - 成長戦略
 - 中期経営計画 数値目標

— 会社概要

会社概要

社名	株式会社ジーデップ・アドバンス
	東京証券取引所スタンダード市場 証券コード 5885
設立	2016年1月15日
代表者	代表取締役CEO 執行役員 飯野 匡道
	仙台本店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町3丁目4番33 仙台定禪寺ビル8階 TEL : 022-713-4050 FAX : 022-713-4051
所在地	東京本社 〒106-6205 東京都中央区晴海一丁目8番12号 トリトンスクエアオフィスタワーZ棟5階 TEL : 03-6803-0620 FAX : 03-6803-0450

ミッション・行動指針

ミッション

Advance with you 世界を前進させよう

行動指針

**当社は社員一人ひとりが社会の一員として、
誠実かつ高い倫理観を持って行動します。**

私たちは事業を通じて社会の発展に寄与します。

私たちは法令を遵守し公正と透明性を重んじます。

私たちは道義的に正しいことを判断基準とします。

私たちは人権を尊重し多様性を受け入れます。

私たちは環境負荷削減、環境リスク低減を通じて未来を創造します。

私たちは心と身体の健康を常に意識し、健やかな職場作りを目指します。

私たちは社会の一員として地域に貢献します。

私たちは常に誇りと責任を持って全ての仕事に取り組みます。

私たちは目的を共有し自身の成長と会社の成長を一緒に楽しめます。

ボードメンバー



代表取締役CEO 執行役員

飯野 匡道

1993年 トーワ電機株式会社入社
2007年 ネバダ州リノで開催されたSuper Computing ConferenceでNVIDIA社のGPUに出会い、翌年から国内での普及活動を開始。
2016年当社創業。



社外取締役
栗原 さやか

弁護士

東京の大手法律事務所を経て、仙台あさひ法律事務所を開設。
2021年当社の社外取締役に就任。



社外取締役
上山 亨

証券会社を経て企業価値向上関連のコンサルティング業務に従事。
複数社での社外役員を経験。
2025年当社の社外取締役に就任。



常勤監査役
山縣 邦雄

日本電気株式会社にて経理・財務などの管理業務に従事した後、
複数のグループ企業の監査役を経験。
2022年当社常勤監査役に就任。



監査役
星 伸之

公認会計士
金融機関を経て、大手監査法人にて監査の他IPO支援業務に携わる。
2016年会計事務所を設立。2021年当社監査役に就任。



監査役
深澤 俊博

弁護士

仙台市内の法律事務所を経て、2022年に仙台かがやき法律事務所開設。
2021年当社監査役に就任。



取締役CFO 執行役員

大橋 達夫

公認会計士
あずさ監査法人で監査の実績を積んだ後、
一般企業でIPO実務を経験。
2020年当社取締役就任。

事業内容

システムインキュベーション事業の単一セグメント、その中にDXサービスとService&Supportのサービス
DXサービスの主な提供内容はAIソリューションとビジュアライズソリューション

システムインキュベーション事業

DXサービス

- ハードウェア及びソフトウェアの提供
- ハードウェアの動作環境の提供

AIソリューション

AI学習環境システムや、推論用エッジデバイスをエンドツーエンドで提供



ビジュアライズソリューション

最新のXRやメタバースなど可視化や仮想化及び、
CAD,CAE,CGなど設計やデザインのためのシステム
やソフトウェアツールの提供



Service & Support

- 保守
- 運用支援
- 性能向上支援

システムメンテナンスに加え、継続的な開発環境のアップデートを行いシステム全体の
パフォーマンス向上を支援



提供

↑ 対価

提供

↑ 対価

提供

↑ 対価

顧客

教育機関

製造業

自動車

情報・通信

スタートアップ

ヘルスケア

M&E

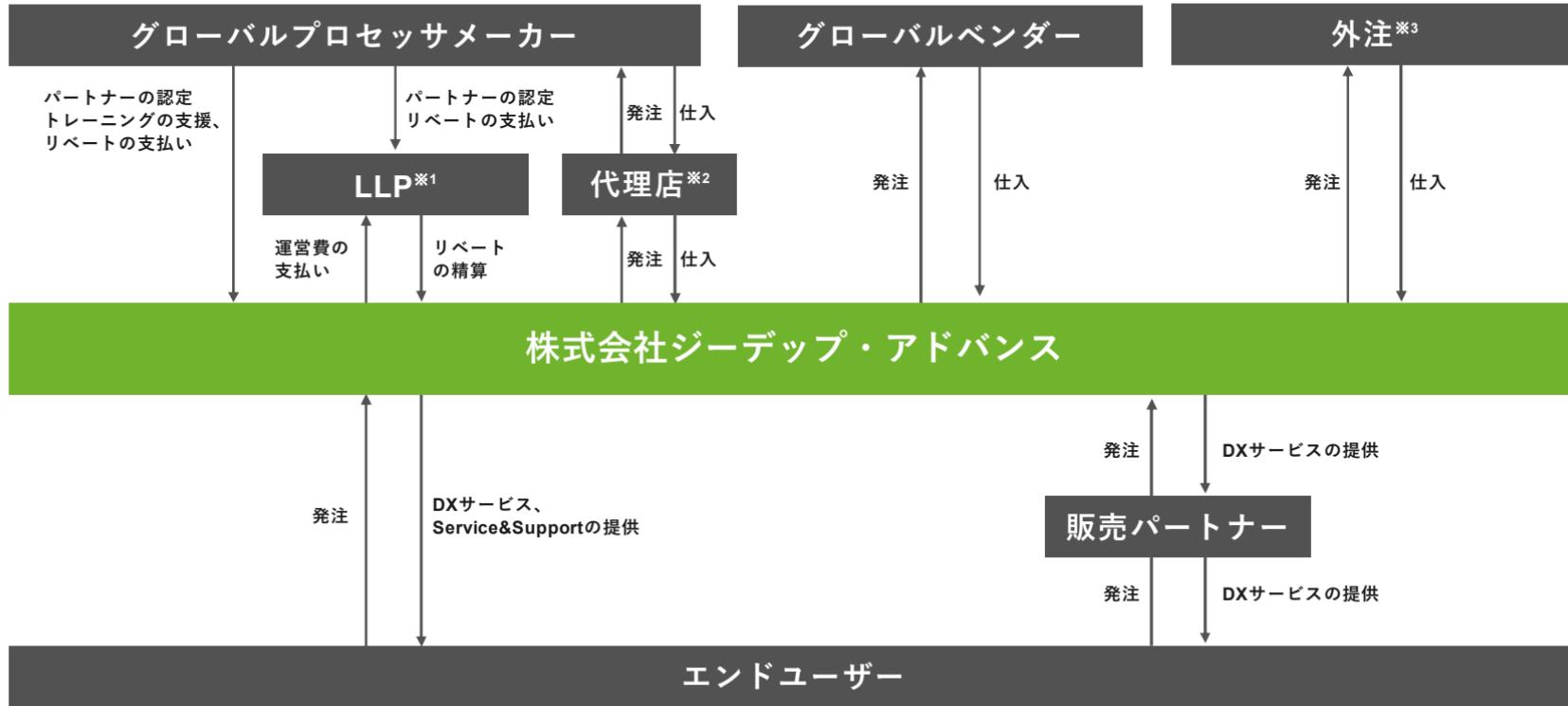
研究機関

サービス区分とビジネスモデル

DXサービスのうち、AIビジュアライズソリューションサービス及び
その他DXソリューションサービスはフロービジネスであり、
DXサービスのうちサブスクリプションサービス及びService&Supportはストックビジネス

サービス区分	主なサービス内容	ビジネスモデル
DXサービス	<p>AI・ビジュアライズソリューションサービス</p> <ul style="list-style-type: none">AIサービスを開発・運用するための製品やサービスの提供と、映像や画像を用いるコンピュータ処理を行うための製品やサービス <p>その他DXソリューションサービス</p> <ul style="list-style-type: none">ストレージの組立・販売やネットワーク機器の販売・設定及びソフトウェアの販売・設定とそれらを組み合わせたシステムの設計や構築	フロー ビジネス
	<p>サブスクリプションサービス</p> <ul style="list-style-type: none">自社内で利用するオンプレミスによる提供の他に、レンタルやクラウドなどを「サブスクリプションサービス」として提供	
Service & Support	<p>継続的な開発環境のアップデート</p> <ul style="list-style-type: none">ソフトウェアのアップデートや最適なバージョンの組み合わせによって、システム全体の性能を向上するサービス <p>ハードウェア保守</p> <ul style="list-style-type: none">Q&A、FAQ共有、障害切り分け、オンサイトサポート、代替え環境などを提供	ストック ビジネス

事業系統図



※1 日本GPUコンピューティング有限責任事業組合を指します。当組合はNVIDIA社からパートナー認定を受けており、NVIDIA社からリペートを受け取り、各組合員に配賦しております。

※2 当社は、主にグローバルプロセッサメーカーからパートナー認定を受けた国内代理店から、商材の一部の仕入を行っております。

※3 組立作業の一部について外注を使用しております。

事例紹介①

INPUT

課題

 InferVision JAPAN様
(中国医療系スタートアップ)

新型コロナの医療画像診断

- 国内の大学や医療研究機関の現場で利用するため、高速な推論処理性能と高信頼性を維持したまま、出来る限りの小型・静音・低消費電力化を行いたい



OUTPUT

ソリューション

AI推論用エッジデバイス
台湾TyanComputer社のベースシステムを改良し、
NVIDIA社の小型GPUを搭載。
徹底した動作検証でNVIDIA社のデバイス認証も取得。

- 小型・低消費電力で高い堅牢性を実現
- NVIDIA社認証を取得し信頼性を担保
- 従来のPC推論よりも最大で36倍高速

Incubation



OUTCOME

スマールマス展開

2020年7月に一般リリースを行い、
顔認証システムや、人流解析、防犯システムなどに採用



課題解決フェーズ

お客様の課題をヒアリングし、先端技術を用いた独自のソリューションを企画・提案・提供
※スマールマスへの展開を意識

スマールマス展開フェーズ

得られた知見を同様の課題を抱えているお客様に対する
セミオーダーメイドソリューションとして展開

事例紹介②

INPUT

課題



海洋研究開発機構（JAMSTEC）様

海洋ゴミのAI解析

- 高解像度で大量の環境画像を高速にAI学習用データとして処理したい
- 知識の乏しい学生でも利用可能な判りやすい操作性が必要
- 将来的に少ない予算でアップグレードを可能にしたい



OUTPUT

ソリューション

AI学習用GPUワークステーション

NVIDIA社の最新GPUとAMD社の最新CPUを組み合わせたシステムに、独自開発したAI学習用のソフトウェアツールを実装。

- 従来の2倍の速度で3,500枚の画像解析に対応
- 独自のAI学習用オリジナルツール「G-works」で操作性が向上
- ハードウェアアップグレードで将来的な性能向上が可能な設計

Incubation



OUTCOME

スマールマス展開

2020年5月に一般リリースを行い、国内の自動車会社や光学機器製造メーカー、公的研究機関、大学などに採用頂き、毎年数百台以上の出荷実績を計上



課題解決フェーズ

お客様の課題をヒアリングし、先端技術を用いた独自のソリューションを企画・提案・提供
※スマールマスへの展開を意識

スマールマス展開フェーズ

得られた知見を同様の課題を抱えているお客様に対する
セミオーダーメイドソリューションとして展開

— 当社の強みと特徴

強みと特徴の概略

グローバルプロセッサメーカー4社から認められる技術力と、グローバルベンダーとの連携から生まれる企画力・製品調達力が源泉となり、高い競争優位性を創出

強みの源泉

グローバルプロセッサメーカー
4社から認定された
高い技術力

グローバルベンダーとの連携から生まれる
企画力・製品調達力



当社の特徴

1 最新テクノロジーと
独自ギミックを組み合わせた
最適解の提案

2 ソリューション提供形態の
多様性

3 Service & Supportによる
顧客継続性

4 スモールマス展開を
見据えた案件獲得

5 他社との差別化を実現する
独自のポジショニング

グローバルプロセッサメーカー4社から認定された高い技術力

Certifications : グローバルプロセッサメーカー4社から13タイプの認定を取得

※この4社から認定を受けているのは日本では当社のみ

特に**NVIDIA**は2007年から良好な関係を構築している**国内No.1※パートナー**

※認定ライセンス数、AIサーバーDGX販売実績、アワード受賞回数

認定

NVIDIA Solution Provider NVIDIA AI Preferred^{*}
 NVIDIA Solution Provider Compute Elite^{*}
 NVIDIA Solution Provider Networking Preferred^{*}
 NVIDIA Solution Provider NVIDIA Omniverse Preferred
 NVIDIA Solution Provider Visualization Elite
 NVIDIA Cloud Partner DGX AI Compute Systems Registered
 NVIDIA Solution Provider DGX AI Compute Systems Elite^{*}
 NVIDIA Solution Provider DGX Cloud Preferred^{*}
 NVIDIA Cloud Partner Visualization Registered
 NVIDIA DGX SuperPOD Specialization Partner^{*}
 ※LLPとしての認定

Awards

FY17 NVIDIA BEST DGX Reseller Award^{*}
 FY18 NVIDIA BEST DGX Reseller Award^{*}
 FY19 NVIDIA BEST DGX Reseller Award^{*}
 FY20 NVIDIA BEST DGX Reseller Award^{*}
 XILINX VAR Recognition Program Champion Award
 FY21 NVIDIA BEST DGX Reseller Award^{*}
 FY22 XILINX VAR Recognition Program Champion Award
 NVIDIA BEST DGX Partner of the year^{*}
 NVIDIA BEST NPN of the year^{*}
 FY23 NVIDIA BEST NPN of the year^{*}
 NVIDIA BEST Infrastructure Partner of the Year^{*}
 FY24 NVIDIA Solution Provider Award of the Year^{*}
 FY25 NVIDIA Solution Provider Award of the Year

※LLPとして受賞



技術力・提案力・実績が評価され
毎年アワードを受賞



intel ® Technology Provider GOLD



XILINX ® ALVEO Value Added Reseller



AMD® Elite Partner



当社の強みと特徴

強みと特徴の概略

グローバルプロセッサメーカー4社から認められる技術力と、グローバルベンダーとの連携から生まれる企画力・製品調達力が源泉となり、高い競争優位性を創出

強みの源泉

グローバルプロセッサメーカー
4社から認定された
高い技術力

グローバルベンダーとの連携から生まれる
企画力・製品調達力



当社の特徴

1 最新テクノロジーと
独自ギミックを組み合わせた
最適解の提案

2 ソリューション提供形態の
多様性

3 Service & Supportによる
顧客継続性

4 スモールマス展開を
見据えた案件獲得

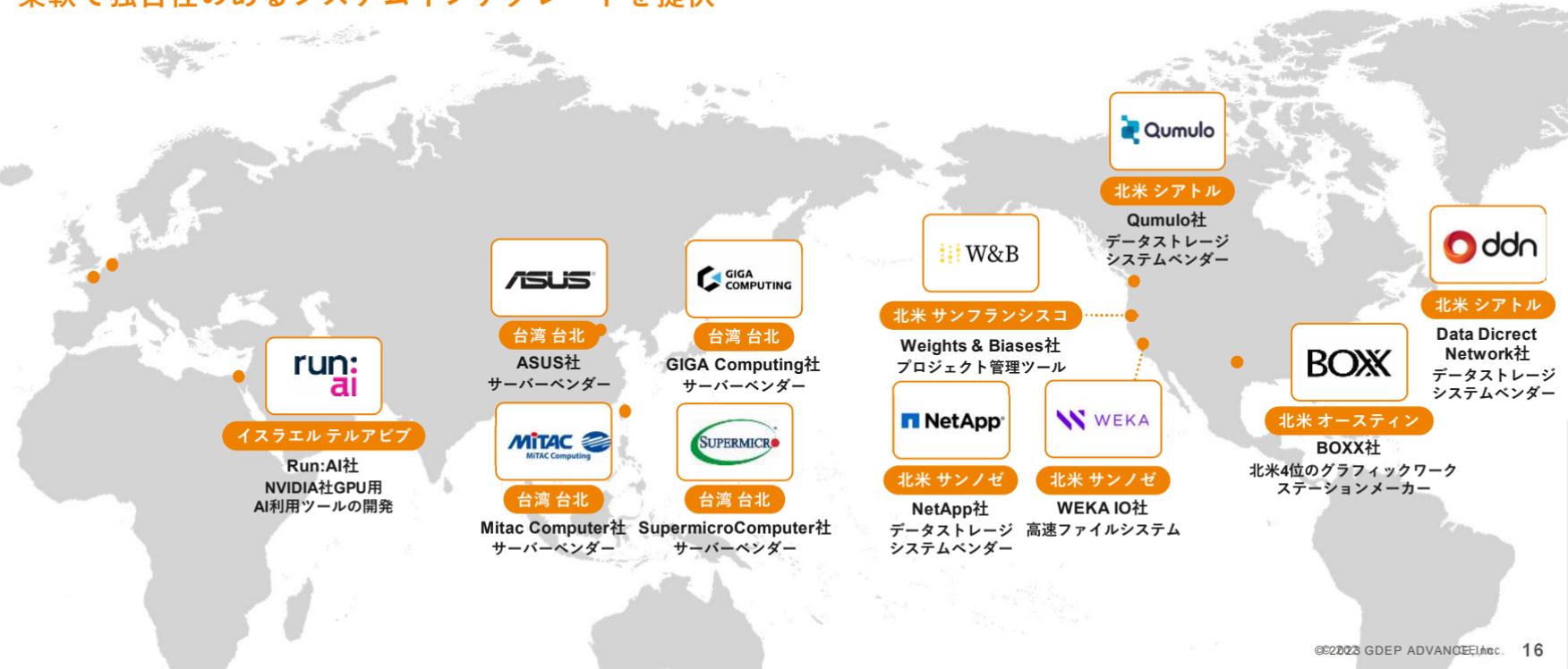
5 他社との差別化を実現する
独自のポジショニング

グローバルITベンダーとの連携から生まれる企画力・製品調達力

世界中のハードウェア・ソフトウェアベンダーの国内代理店・パートナーとして活動

多様なハードウェアとユニークなソフトウェアの組み合わせで、

柔軟で独自性のあるシステムインテグレートを提供



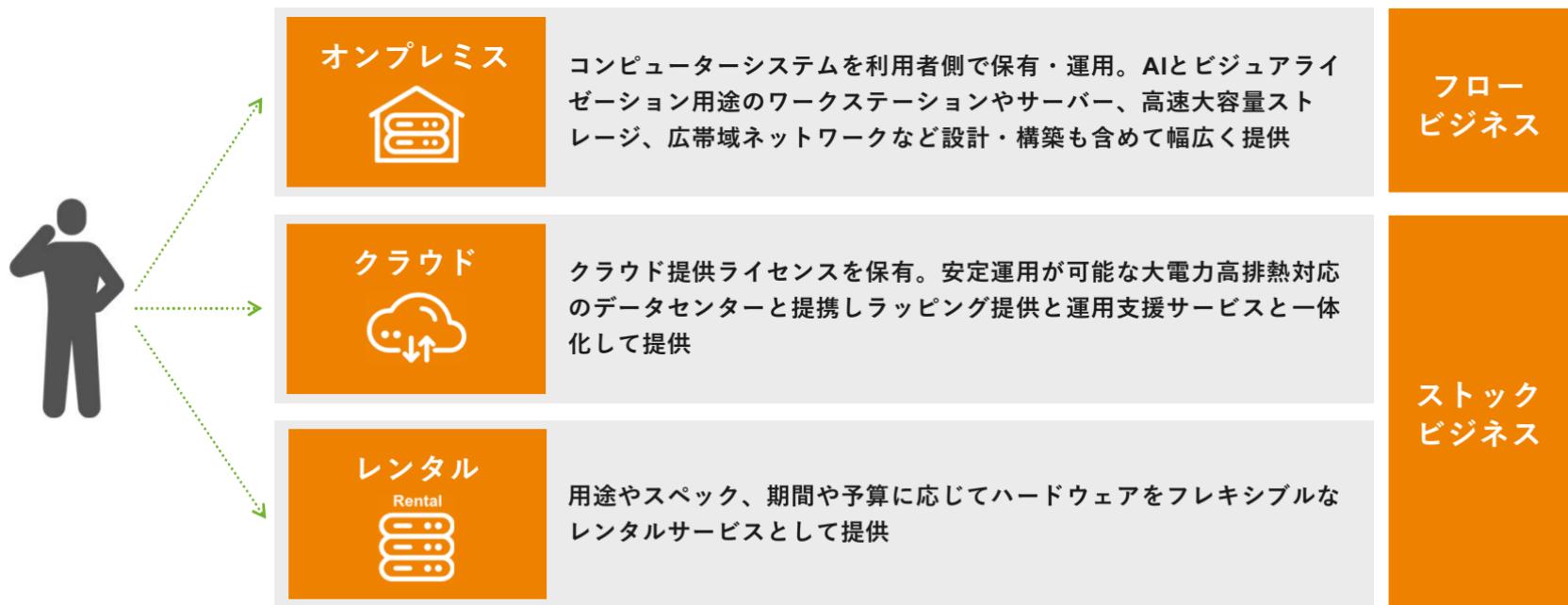
1 最新テクノロジーと独自のギミックを組み合わせた最適解の提案

グローバルプロセッサメーカー4社の認定パートナーとしての技術力と、グローバルベンダーとの綿密な情報共有により**最新のテクノロジーを組み合わせ、そこに独自のギミックを追加**
顧客の課題解決のためのベストソリューションを設計・提案



2 ソリューション提供形態の多様性

フロービジネスとなるオンプレミスだけでなく、ストックビジネスであるクラウド、レンタルサービスまで、多様な顧客ニーズに対応可能な柔軟な提供形態



3 Service & Supportによる顧客継続性

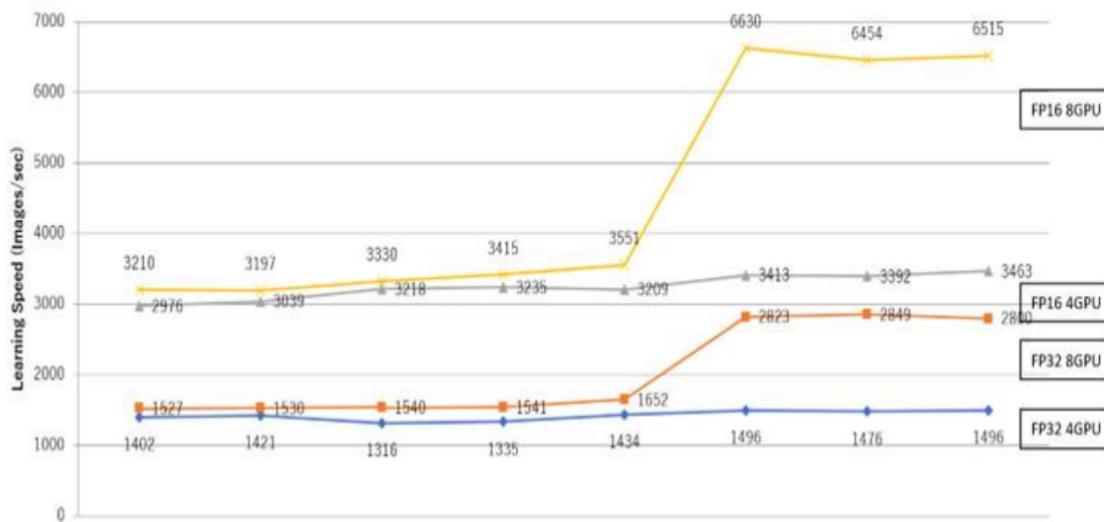
ソフトウェアチューニングによる性能変化を実機検証し、お客様のシステムを常に最適な環境に更新

ハードウェアはそのままでシステムの性能を継続的に向上していくサービス

導入後の利用価値向上（ユーザーエクスペリエンス）を実現

ソフトウェアのアップデートや世代別のバージョンの組み合わせで最適値を見つける作業である
ソフトウェアチューニングを行うことでシステム全体のパフォーマンスを向上

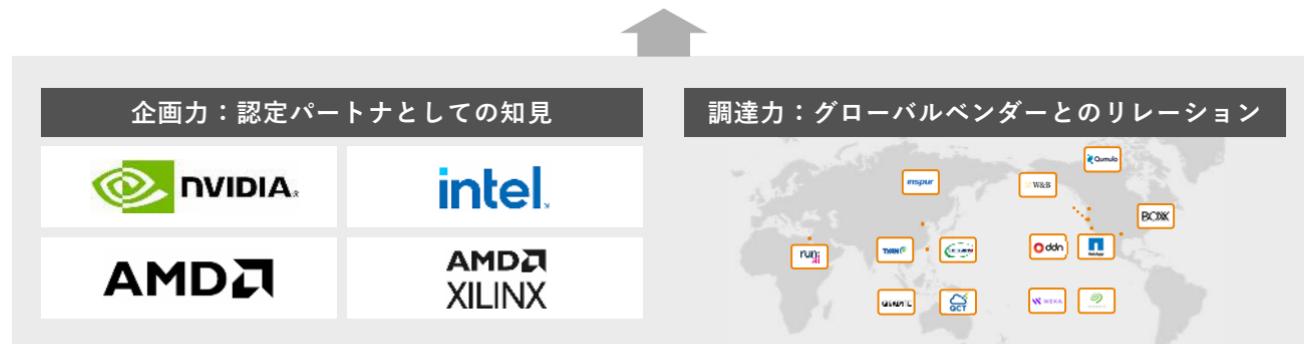
R&Dでの利用がメインで、進化や
トレンド変化のスピードが速い
AI開発環境は当社の得意領域



4 スモールマス展開を見据えた案件対応

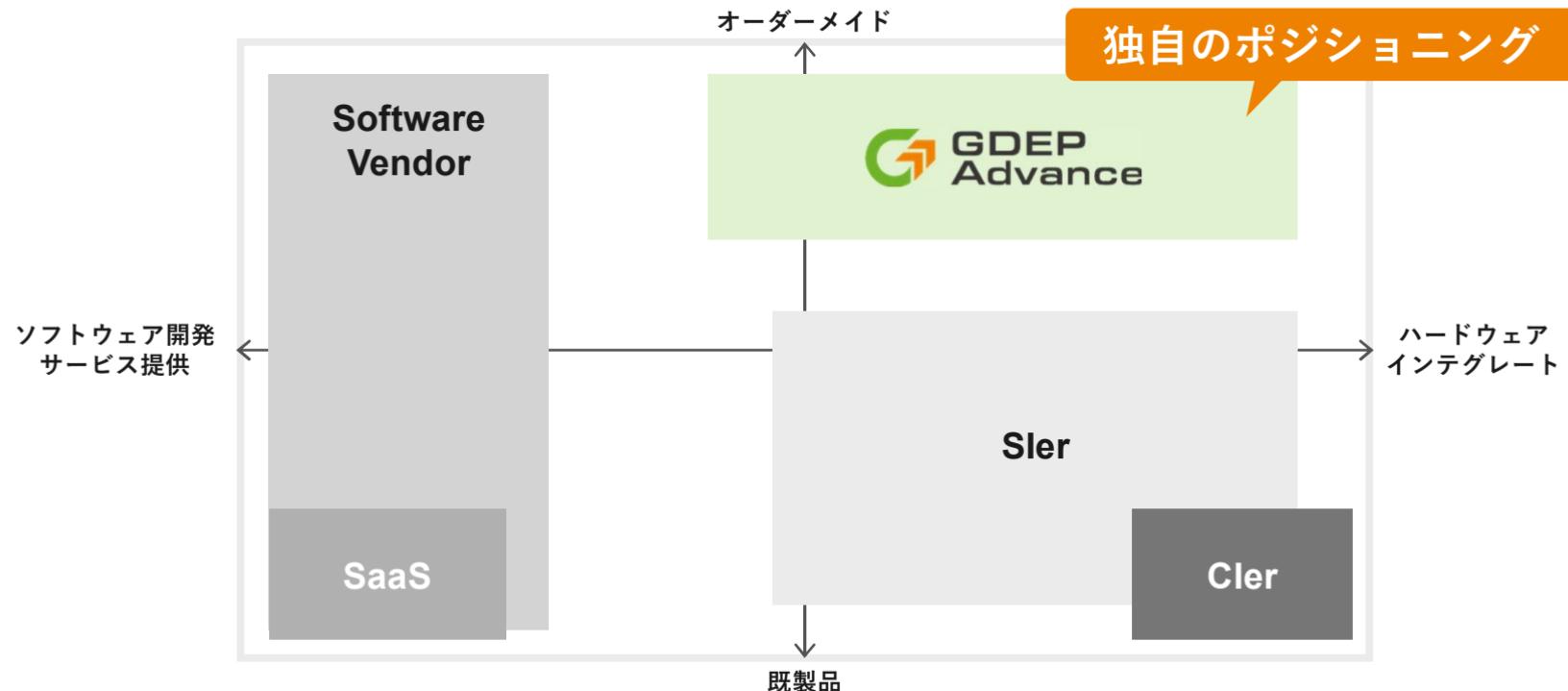
個別の課題解決を通して、スモールマスに展開可能なソリューションを開発

独自ギミックを付加し、模倣困難性を高めることによりスモールマス展開時において高い収益性を実現



5 他社との差別化を実現する独自のポジショニング

最先端のハードウェアに強い知見を有した柔軟性のあるソリューションプロバイダー



— 2026年5月期 第2四半期決算

ハイライト

売上高

3,083百万円

前年同期比

△22.8%

対通期予想進捗率

42.2%

営業利益

613百万円

前年同期比

+23.1%

対通期予想進捗率

65.7%

【売上】

- トランプ関税の影響により製造業や自動車などの一部のお客様で意思決定が後ろ倒しになった。
- 1億前後の比較的大型な案件の動きが鈍い一方で、リカバリー策として講じた従来より当社が得意としている高付加価値の中小型案件の需要取り込みに成功。結果セールスマックスの変化により利益率が改善した。
- 昨年受注の10億以上の大規模案件についても無事に納品検収が完了している。

【営業利益】

- 人員増加、設備投資などにより販管費は約55百万増加しているが、セールスマックスの変化において一定の利益率を確保できたことで、売上総利益率が+10.8ptの28.7%と改善し二桁増益を達成。進捗率も65.7%と順調に推移している。

業績の概要

(千円)	2025年5月期 第2四半期		2026年5月期 第2四半期		前年同期比 (増減率)
	実績	売上比	実績	売上比	
売上高	3,995,118	—	3,083,815	—	△911,302 (△22.8%)
売上総利益	714,831	17.9%	885,290	28.7%	+170,458 (+23.8%)
営業利益	498,540	12.5%	613,745	19.9%	+115,205 (+23.1%)
経常利益	497,158	12.4%	649,068	21.0%	+151,909 (+30.6%)
中間純利益	344,138	8.6%	448,308	14.5%	+104,169 (+30.3%)

● 売上総利益

セールスマックスが変化した影響により、利益率がYoY+10.8ptの28.7%と改善
減収ではあるものの+23.8%の大幅増益を達成

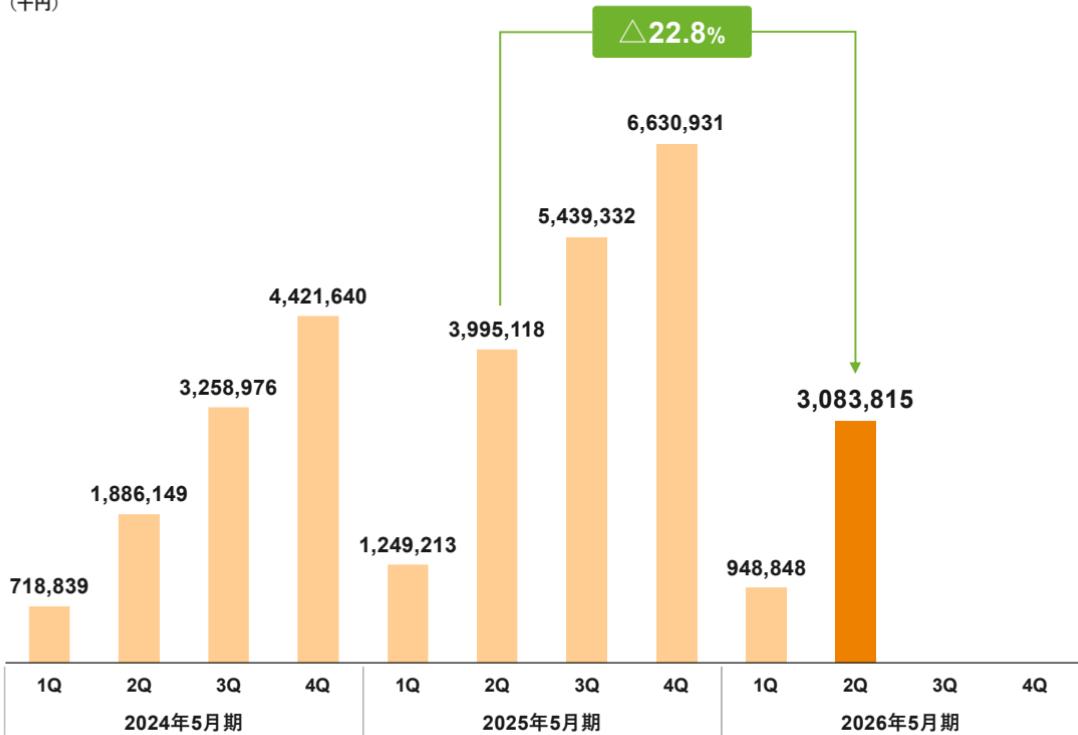
● 経常利益

前期よりも為替差益を計上できたこともあり、YoY+30.6%の増益を達成

2026年5月期 第2四半期決算（累計）

売上高の四半期推移（累計）

（千円）

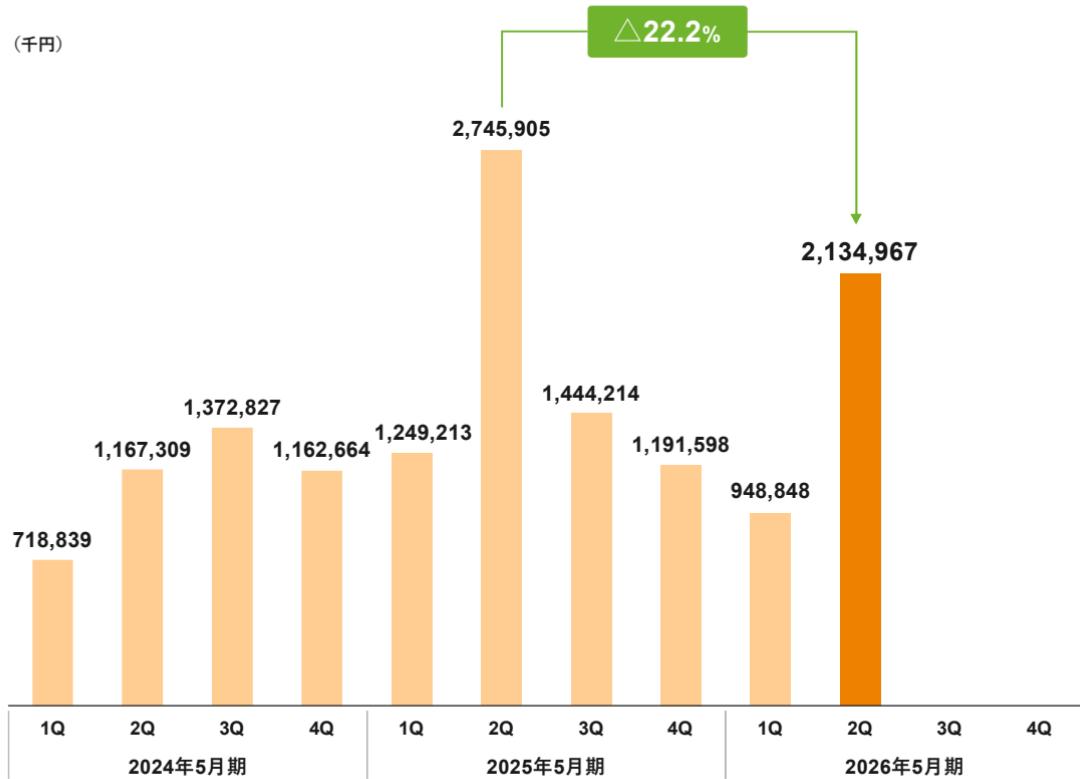


- トランプ関税の影響により当初想定していた1億前後の比較的大型な案件については意思決定が長期化
- 特に製造業と自動車のお客様については案件規模に関わらず投資が遅れている

上記の結果、当2Qの売上は想定よりも伸び悩み

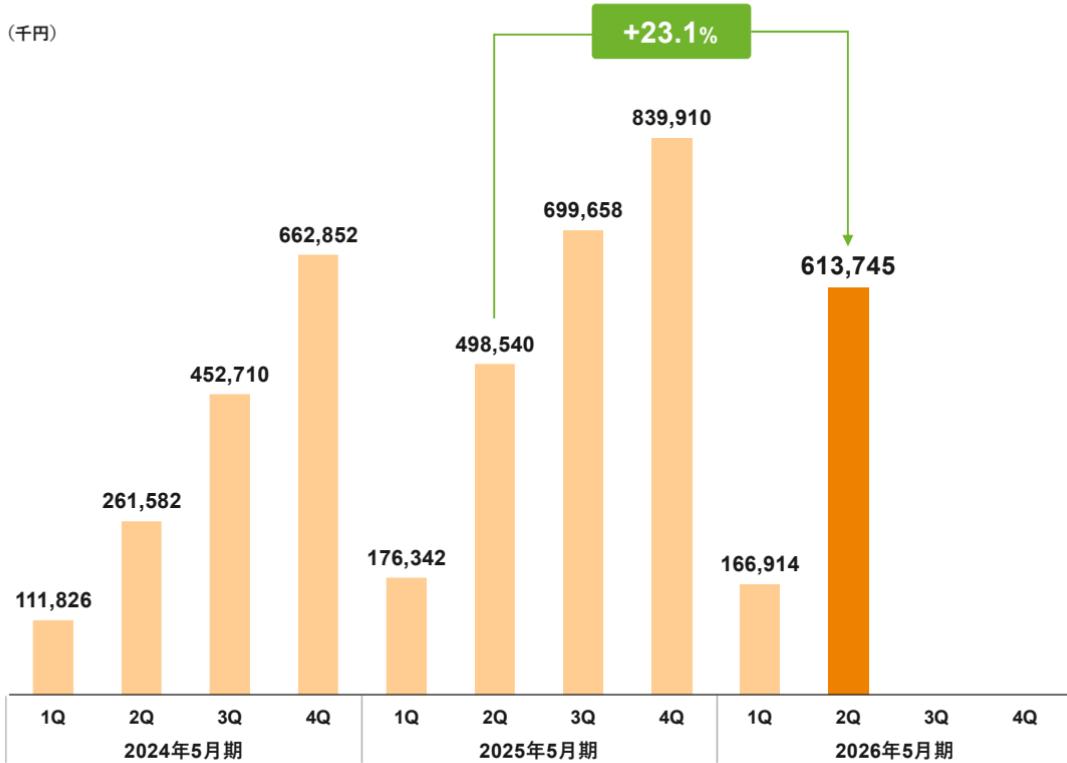
リカバリー策として中小型で高付加価値の案件に注力

売上高の四半期推移



- 当2Qも10億以上の大型案件を計上したため、20億円以上の売上計上を達成
- 一方で前述のような理由から、1億前後の価格帯の案件が受注に至らず減収となった

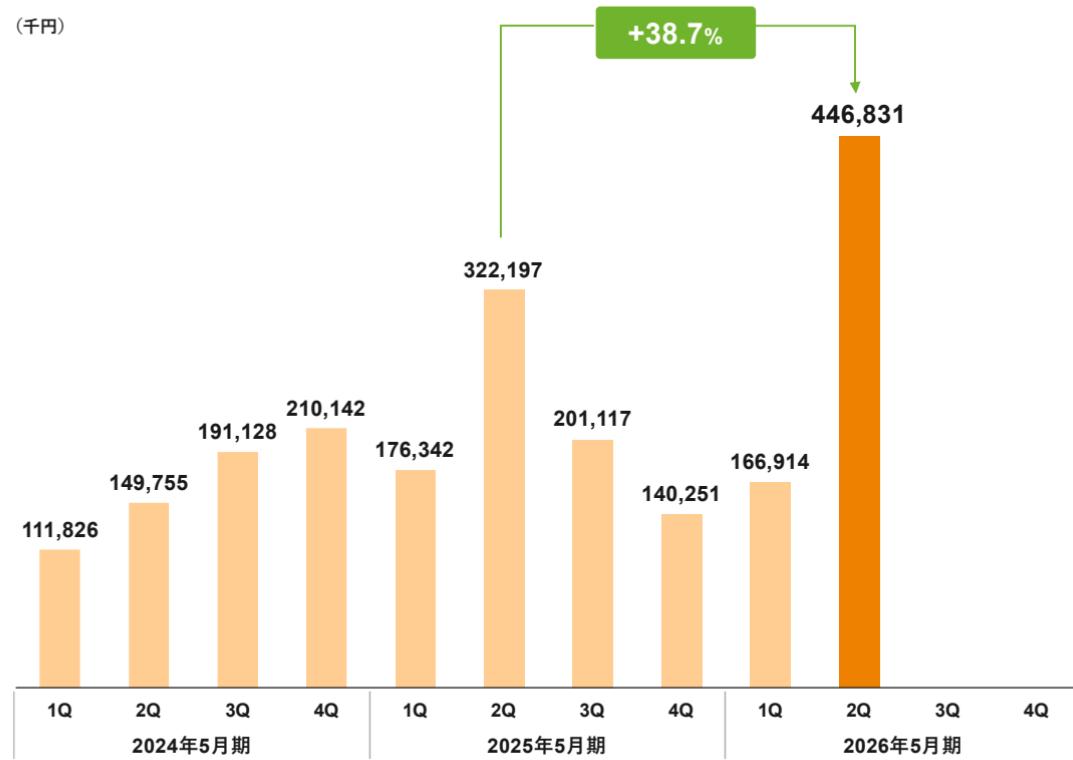
営業利益の四半期推移（累計）



- 売上の減収に加え、人件費や設備投資を起因とする減価償却費など、販管費が約25%増加
- 上記マイナス要因はあったが、セールスマックスの変化による売上総利益率の大幅な改善により、営業利益は昨対で20%以上の増益を達成

営業利益の四半期推移

(千円)

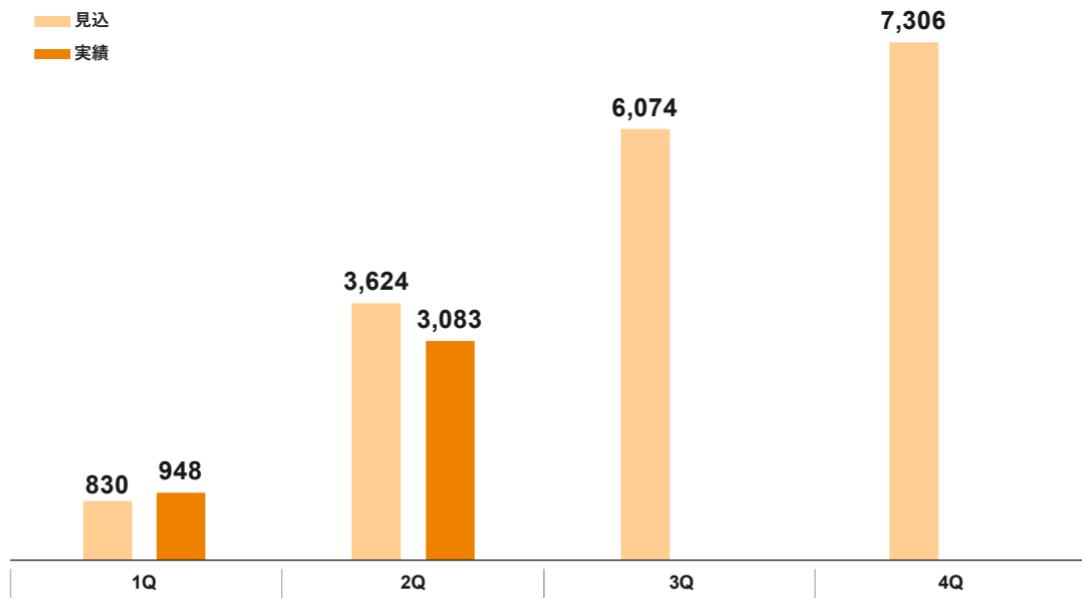


- 2Qにおいても大幅な売上総利益率の改善 (+10.8pt) を果たした結果、営業利益はYoYで38.7%増の大幅増益を達成

売上高の四半期推移見込と実績（累計）

(百万円)

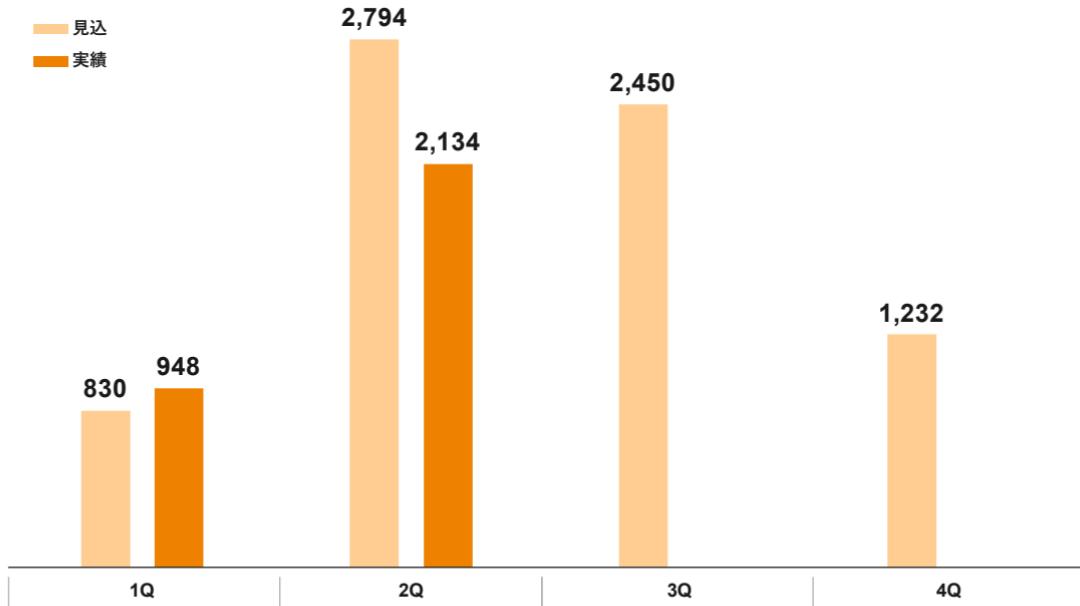
見込
実績



- 大型案件（10億円規模）については計画通り2Qに売上を計上
- 一方で製造業や自動車業界向けの案件が見送りになった影響もあり、見込を下回る結果となった

売上高の四半期推移見込と実績

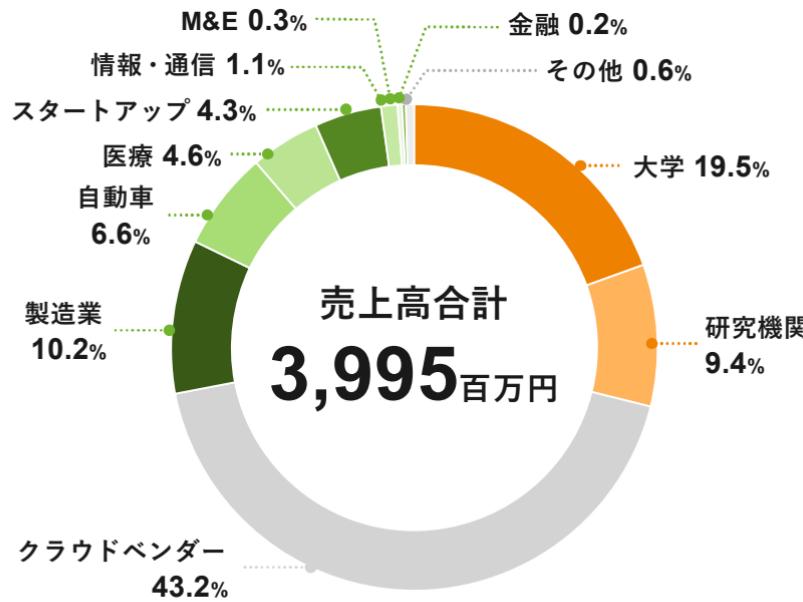
(百万円)



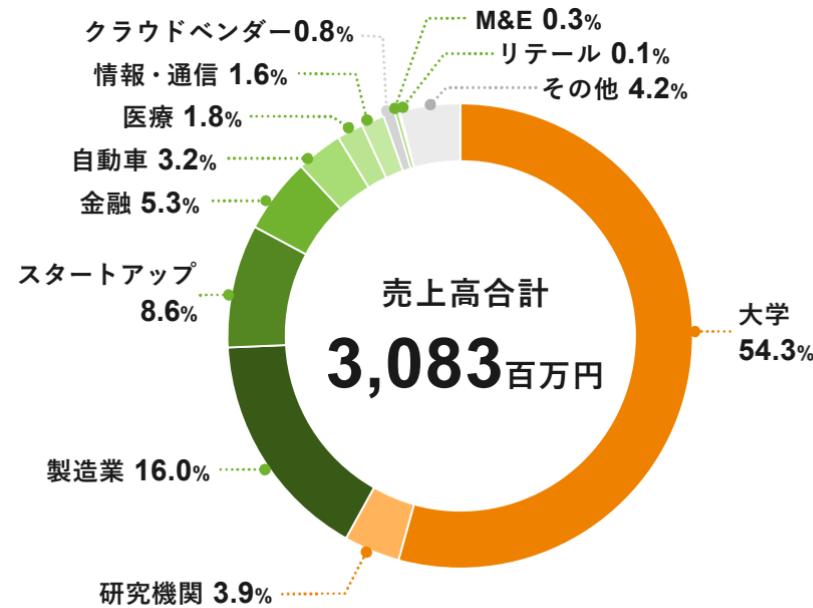
- 大型案件（10億円規模）については計画通り2Qに売上を計上
- 一方で製造業や自動車業界向けの案件が見送りになった影響もあり、見込を下回る結果となった

インダストリー別売上

2025年5月期 第2四半期



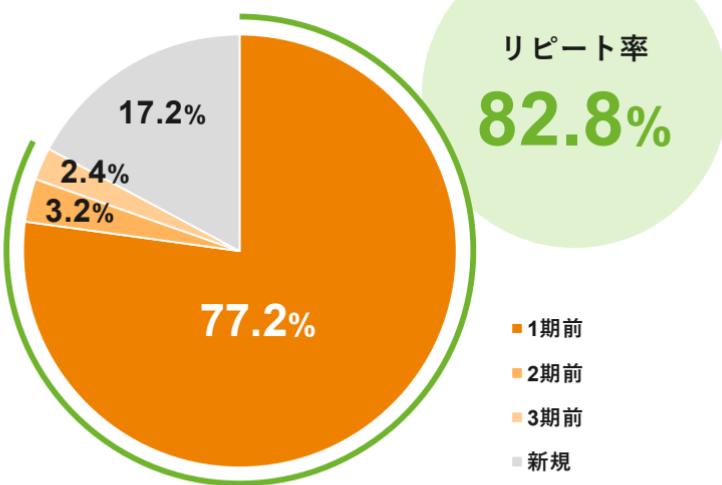
2026年5月期 第2四半期



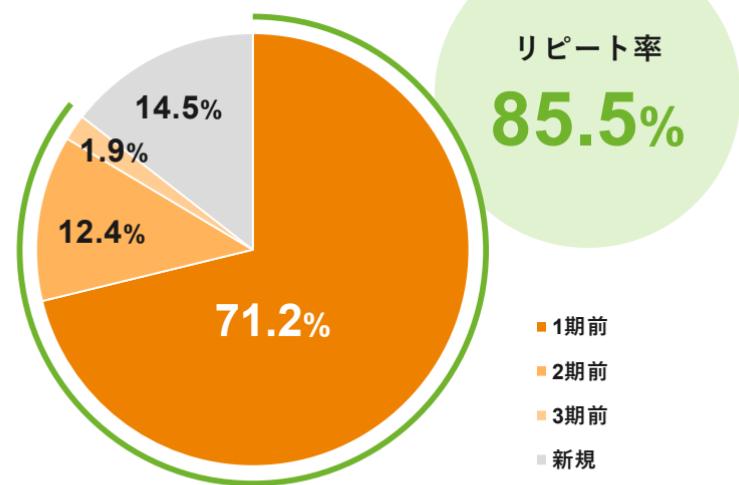
顧客構成比におけるリピート率

第2四半期時点でもフロー売上の85%以上がリピートオーダー

2025年5月期



2026年5月期 第2四半期



当期売上の得意先に対して

※ 1期前の売上には、N-1期も売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-2期以前に売上を計上している場合も含む）

※ 2期前の売上には、N-1期に売上を計上していなかったもののN-2期に売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-3期に売上を計上している場合も含む）

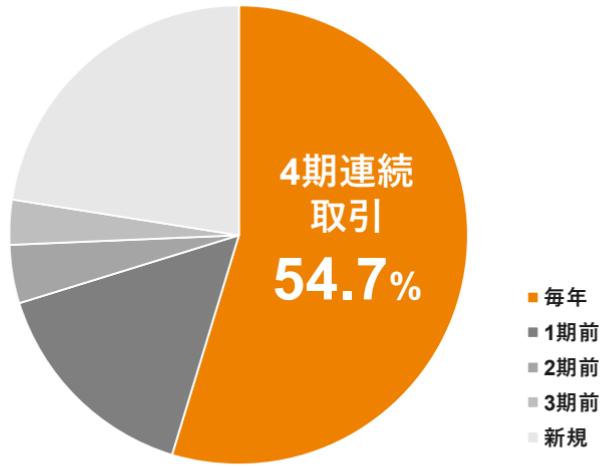
※ 3期前の売上には、N-1期、N-2期に売上を計上していなかったもののN-3期に売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-3期に売上を計上している場合も含む）

※ 2026年5月期に計上の10億円超の大型案件の売上を除く。

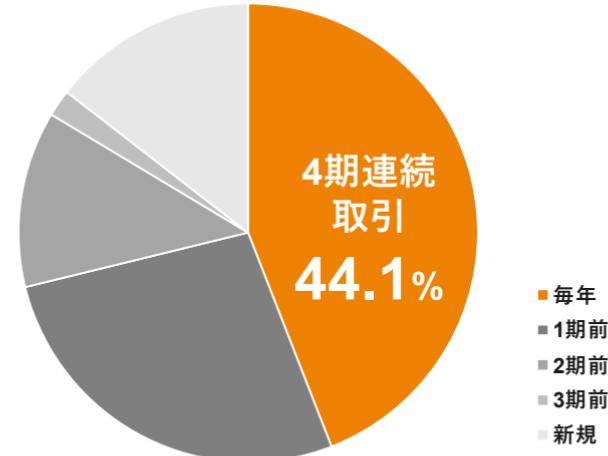
取引継続率

CXによる固定客化が成功しており、4期連続（毎期）継続取引をしている顧客は引き続き50%弱と強固な顧客基盤を形成

2025年5月期



2026年5月期 第2四半期



当期売上の得意先に対して

※ 1期前の売上には、N-1期も売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-2期以前に売上を計上している場合も含む）

※ 2期前の売上には、N-1期に売上を計上していなかったもののN-2期に売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-3期に売上を計上している場合も含む）

※ 3期前の売上には、N-1期、N-2期に売上を計上していなかったもののN-3期に売上を計上している得意先に対する売上を指す（N-3期に売上を計上している場合も含む）

※ 2025年5月期、2026年5月期に計上する10億円超の大型案件の売上を除く。

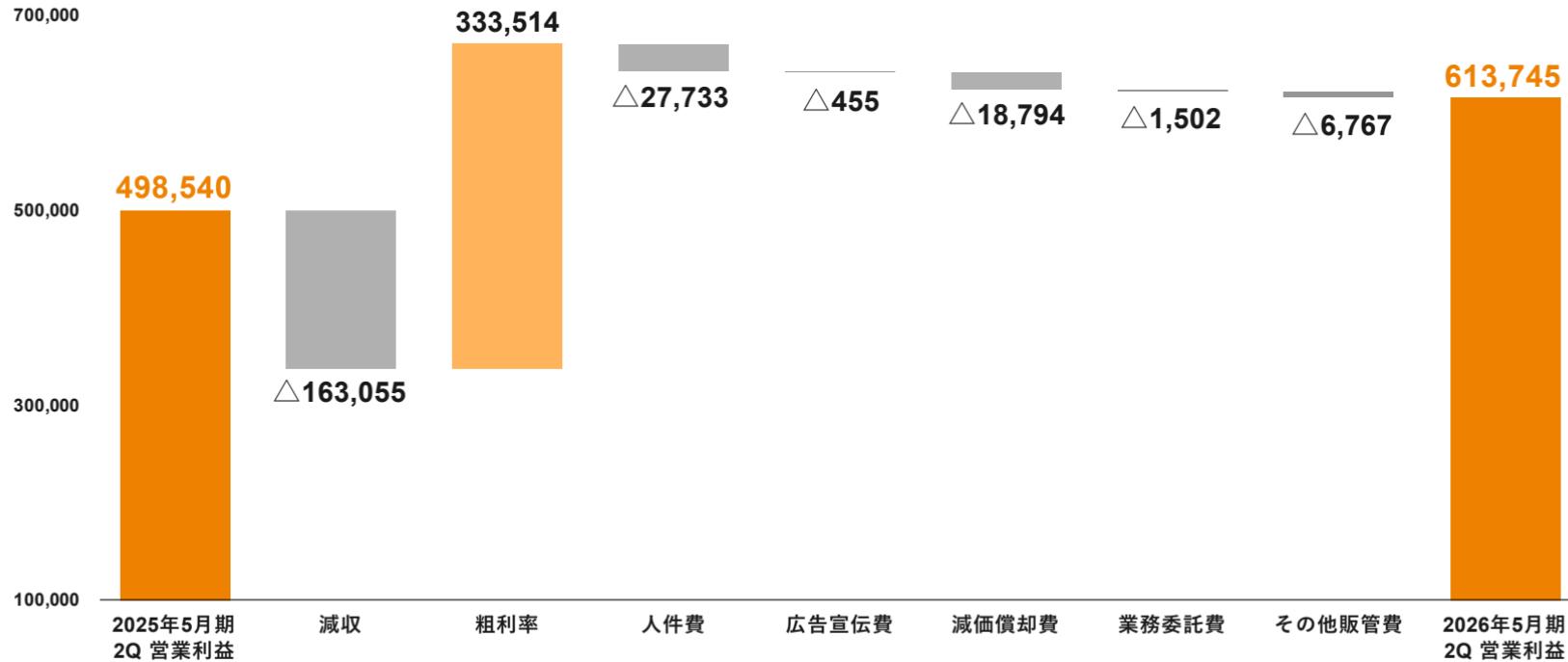
サービス区分別売上高

(千円)	2025年5月期 第2四半期	2026年5月期 第2四半期	増減額	増減率
売上高	3,995,118	3,083,815	△911,302	△22.8%
DXサービス	3,777,843	2,808,862	△968,981	△25.6%
Service & Support	217,274	274,953	+57,679	+26.5%

- DXサービスは、トランプ関税の影響により減収
- Service & Supportは、引き続き件数を着実に伸長
増収基調が継続

営業利益 増減分析

(千円)



販管費

(千円)	2025年5月期 第2四半期	2026年5月期 第2四半期	増減額	増減率	
販売費及び一般管理費	216,290	271,544	+55,253	+25.5%	
人件費	98,660	126,394	+27,733	+28.1%	人員増加による影響
広告宣伝費	17,537	17,992	+455	+2.6%	
業務委託費	21,050	22,552	+1,502	+7.1%	
減価償却費	15,182	33,977	+18,794	+123.8%	設備投資による影響
その他販管費	63,860	70,627	+6,767	+10.6%	

営業外収益・費用

(千円)	2025年5月期 第2四半期	2026年5月期 第2四半期	増減額	増減率
営業外収益	3,905	35,322	+31,416	—
為替差益	—	27,088	+27,088	—
受取利息	3,698	8,205	+4,506	+121.8%
その他	207	28	△178	△86.1%
営業外費用	5,288	—	△5,288	—
為替差損	5,288	—	△5,288	—

- 為替が若干プラスに働き、経常利益は増益

通期業績予想に対する進捗

(百万円)	2026年5月期 第2四半期		2026年5月期 通期		進捗率
	実績	売上比	予想	売上比	
売上高	3,083	—	7,308	—	42.2%
営業利益	613	19.9%	934	12.8%	65.7%
経常利益	649	21.0%	934	12.8%	69.5%
当期純利益	448	14.5%	617	8.4%	72.6%

- 売上の進捗は芳しくない一方で、営業利益以下の段階損益の進捗は順調

【下期のポイント】

- メモリーやストレージなどのIT部材の高騰や品薄が顕著になっており、部材の確保と納期の確定がかなり重要な課題となっている
- この様な状況下で売上総利益率について上期よりも悪化する見込みではあるものの、引き続き高い水準を維持できるか、また2QでDelayした案件を当期中に取り込めるかが鍵

配当予想

	2023年5月期	2024年5月期	2025年5月期	2026年5月期 予想
1株当たり 配当金(円)※	62.00	67.00	23.00 (92.00)	29.00
配当性向	19.7%	20.4%	23.0%	25.4%

- 配当は重要な株主還元施策
- 必要な投資はしっかりと
行った上で、毎期配当性向は引
き上げていく方針

※ 2024年12月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を実施

※ 2023年5月期～2024年5月期は
株式分割実施前の数字

※ 2025年5月期の数字は株式分割実施後の数字。
() 内は分割を考慮しない場合の数字

— APPENDIX

— 業績補足

貸借対照表

(千円)	2025年5月期末	2026年5月期 第2四半期末	増減額	増減率
流動資産	4,391,214	5,179,098	+787,884	+17.9%
現金及び預金	3,334,112	3,459,024	+124,911	+3.7%
商品	960,913	1,255,491	+294,577	+30.7%
固定資産	217,374	201,093	△16,280	△7.5%
資産合計	4,608,588	5,380,192	+771,603	+16.7%
流動負債	1,027,257	1,336,234	+308,976	+30.1%
固定負債	729,414	858,885	+129,470	+17.8%
純資産合計	2,851,916	3,185,072	+333,156	+11.7%
負債純資産合計	4,608,588	5,380,192	+771,603	+16.7%
自己資本比率	61.8%	59.1%	△2.7pt	—
有利子負債	—	—	—	—

— 市場狀況分析

現在の状況

ネガティブ

- トランプ関税の影響で国内の製造業や自動車産業の先行き不透明感が増大
- インフレと運用コスト（電気代、スペース、規制対策コスト）の増大
- IT部材（メモリーやストレージなど）の高騰や品薄

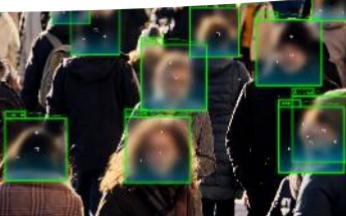
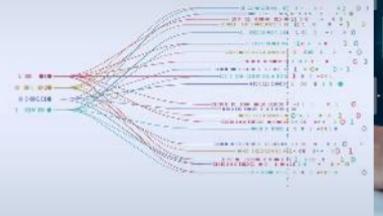
ポジティブ

- 生成AIやマルチモーダルAIなどAIの進化と市場の拡大に伴い案件規模が引き続き大型化
- GPUの新製品ローンチスパンの短縮 2028年まで毎年新製品が市場投入される予定
- 「令和7年度予算案 AI関連の主要な施策について」予算規模1969億円、前年比67.4%増

https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/yosan_7nendo_an.pdf

AIの進化と市場の拡大

特定分野のみに利用されていたAIは、今後急激に領域を拡大

PERCEPTION AI	GENERATIVE AI	AGENTIC AI	PHYSICAL AI
画像認識 <ul style="list-style-type: none">● 異常検知● 不良品検出● 病巣診断● 文字認識 など  	生成AI <ul style="list-style-type: none">● コンテンツ生成● チャットボット● ボイスボット など	エージェントAI <ul style="list-style-type: none">● パーソナルアシスタント● 業務プロセス自動化 など 	フィジカルAI <ul style="list-style-type: none">● ロボティクス● 先進モビリティ など 

AI（生成AIを含む）の国内市場予測

2028年までにAIマーケットは2兆7780億円に成長

うち生成AI市場は2023年度比12.3倍の1兆7,397億円、AI市場の6割程度を占める

(億円)

30,000

AI国内市場
生成AI市場

CAGR17.2%の市場成長

25,000

20,000

15,000

1兆4,735億円

10,000

5,000

0

2兆7,780億円

1兆7,397億円

2024

2025

2026

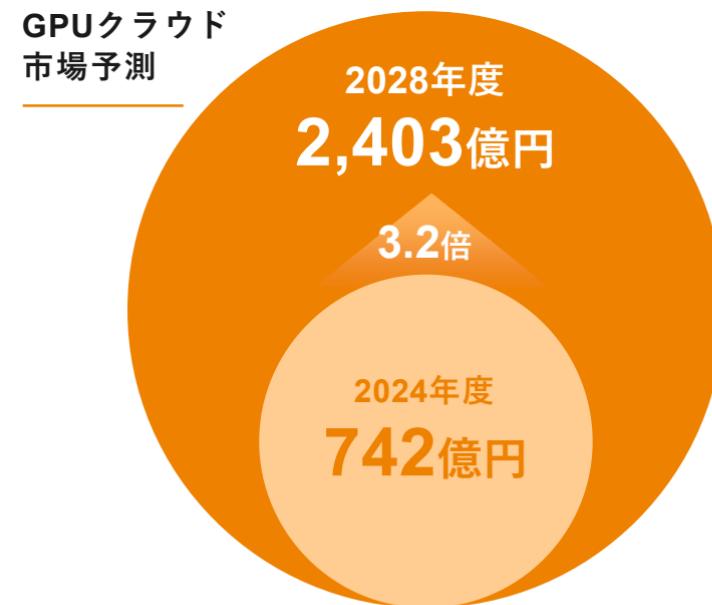
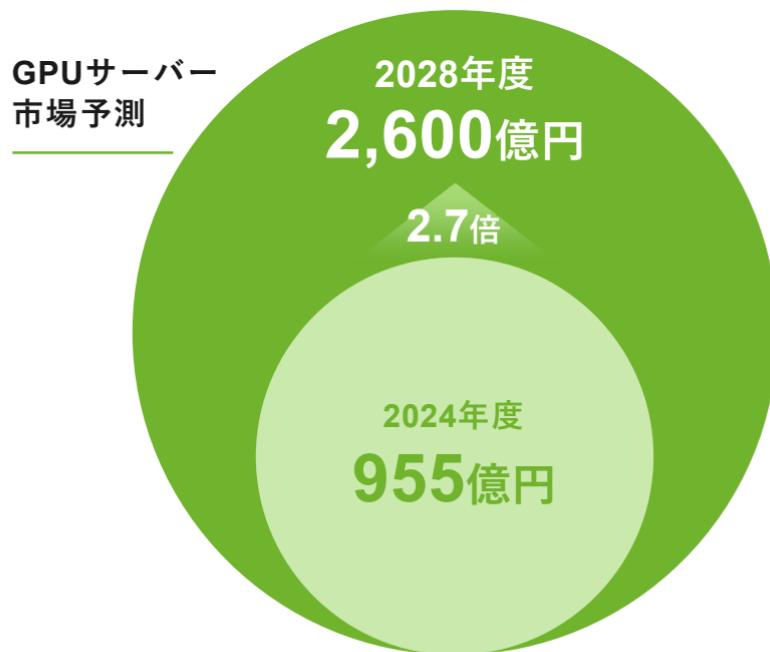
2027

2028

(年)

AI向けGPUサーバー/GPUクラウド予測

2024年から2028年の5年間でGPUサーバーの市場は2.7倍に、
GPUクラウドの市場は3.2倍にそれぞれ拡大が予測される



— 成長戰略

成長戦略

1

上位レイヤービジネスへの移行

2

大規模AI時代に合わせたエコシステムの増強

3

事業ドメインの拡大

上位レイヤービジネスへの移行

引き続き上位レイヤーへのポートフォリオの拡充を図り、幅広いユーザーニーズに対応
シームレスなアップセル・クロスセルを促進する

AI開発のためのツールを
ソリューションとして提供



AI Enterprise

AGE / W&B



GPU Card

HGX Server

DGX Series

PCI-E GPU Server

DGX CLOUD

DGX Pod



国内4カ所の
データセンターと連携し
安定稼働環境を用意

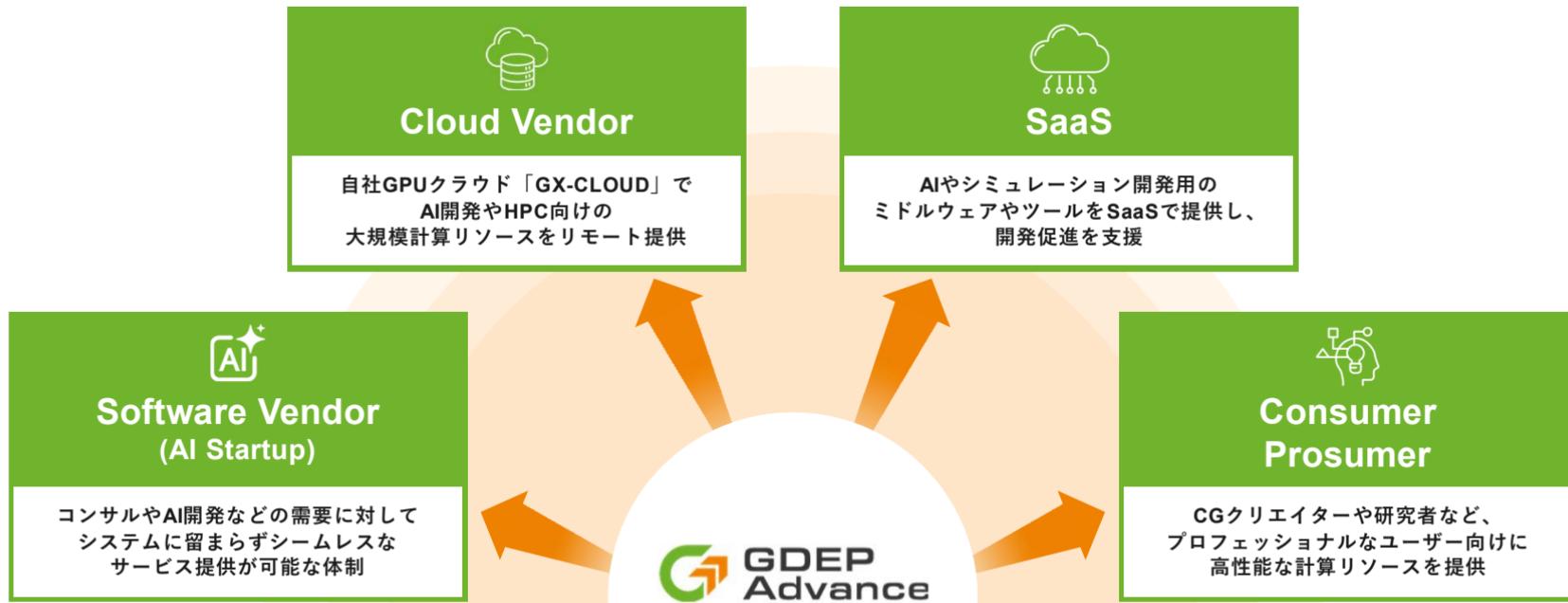
大規模AI時代に合わせたエコシステムの増強

クラウドベンダーとデータセンターと提携しオンプレミスとクラウドのハイブリッド利用を促進
また、AIスタートアップとのコラボソリューションもラインナップ



事業ドメインの拡大

親和性の高い事業ドメインへの新規参入やM&Aを通して成長を加速し、
先進的なソリューションを提供する「アドバンスドソリューションベンダー」を目指す



— 中期経営計画 数値目標

事業成長

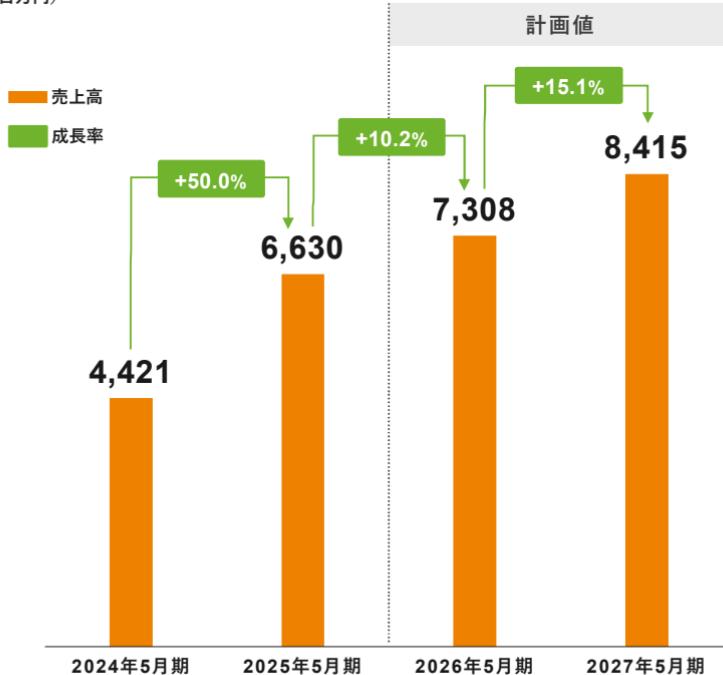
中計最終年度2027年5月期の営業利益10億円達成に向けて着実に前進

2025年5月期（実績）		2026年5月期（修正）	2027年5月期	After 中計
方針	ヒト・設備への投資期間	投資回収フェーズ		
方針	トップラインの伸びを加速させるとともに、ヒトと設備への投資を積極的に実施	25年5月期、26年5月期の投資の成果により、営業利益の成長率を加速させていく	営業利益の高い成長率を維持するとともに、営業利益率も高めていく	
売上高	6,630	 7,308	 8,415	
営業利益	839	 934	 1,055	
営業利益成長率	26.7%	 11.2%	 13.0%	

数値目標

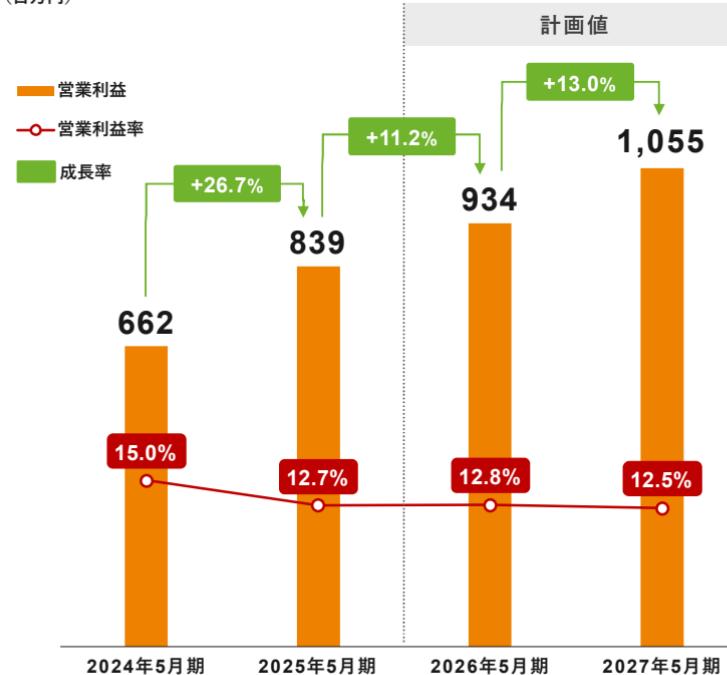
売上高

(百万円)



営業利益・営業利益率

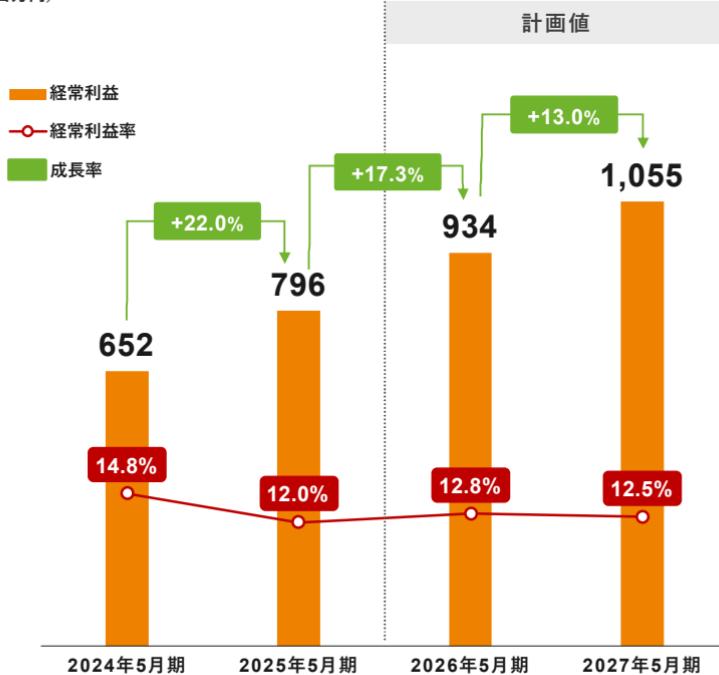
(百万円)



数値目標

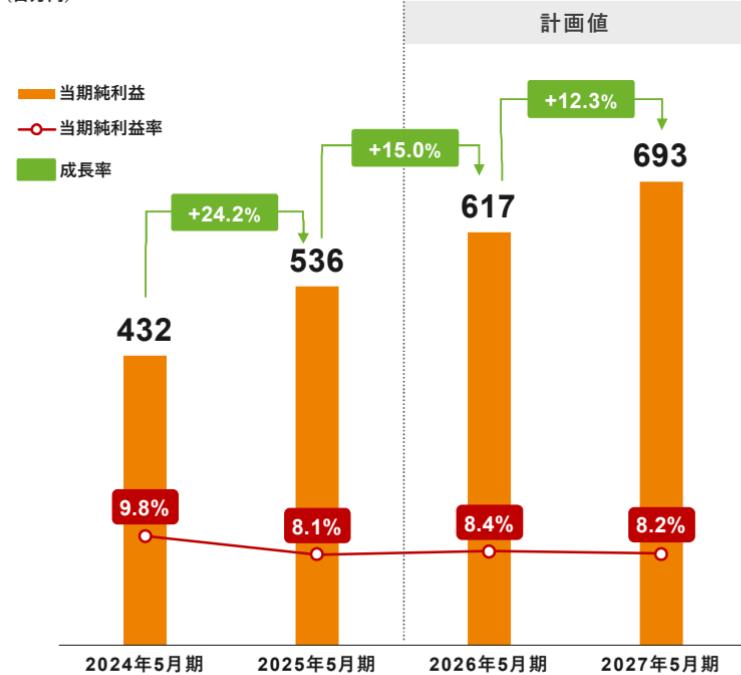
経常利益・経常利益率

(百万円)



当期純利益・当期純利益率

(百万円)



インダストリー別の売上推移予想

(百万円)

9,000

8,000

7,000

6,000

5,000

4,000

3,000

2,000

1,000

0

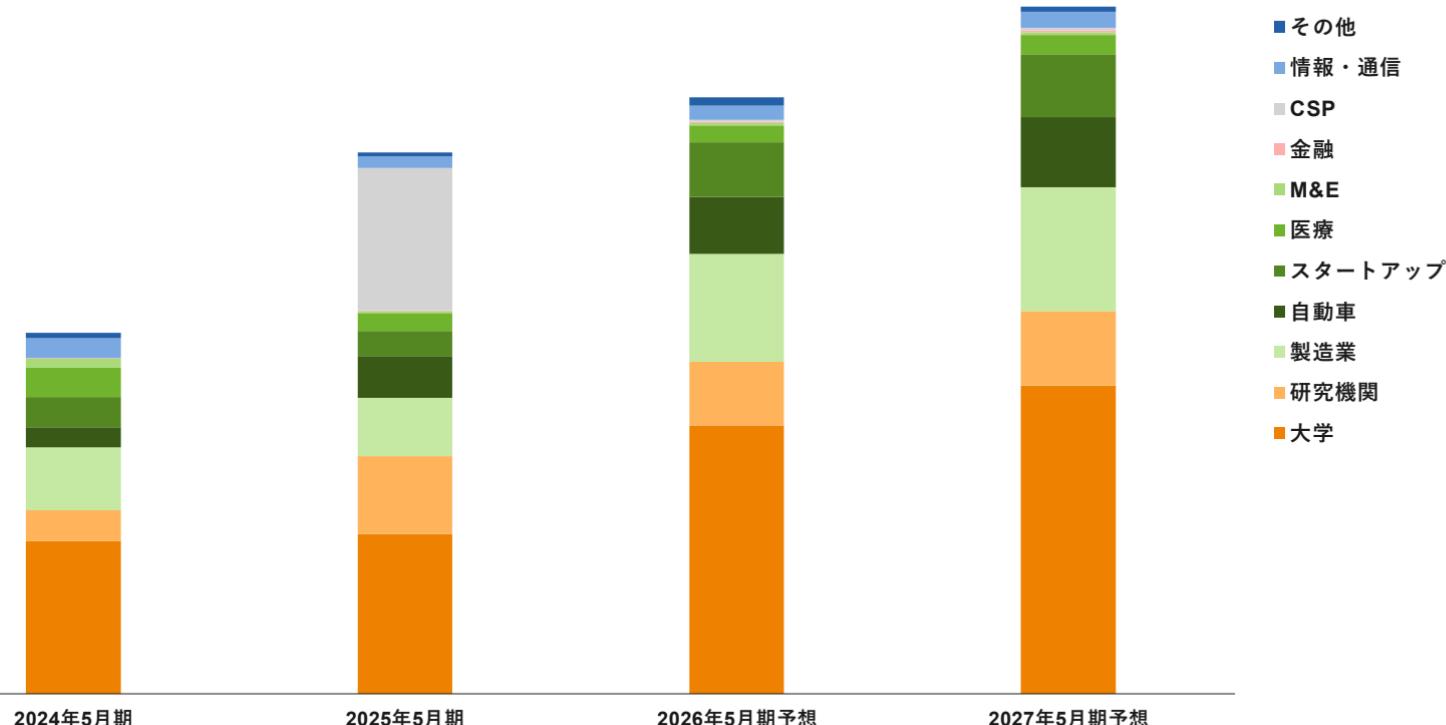
2024年5月期

2025年5月期

2026年5月期予想

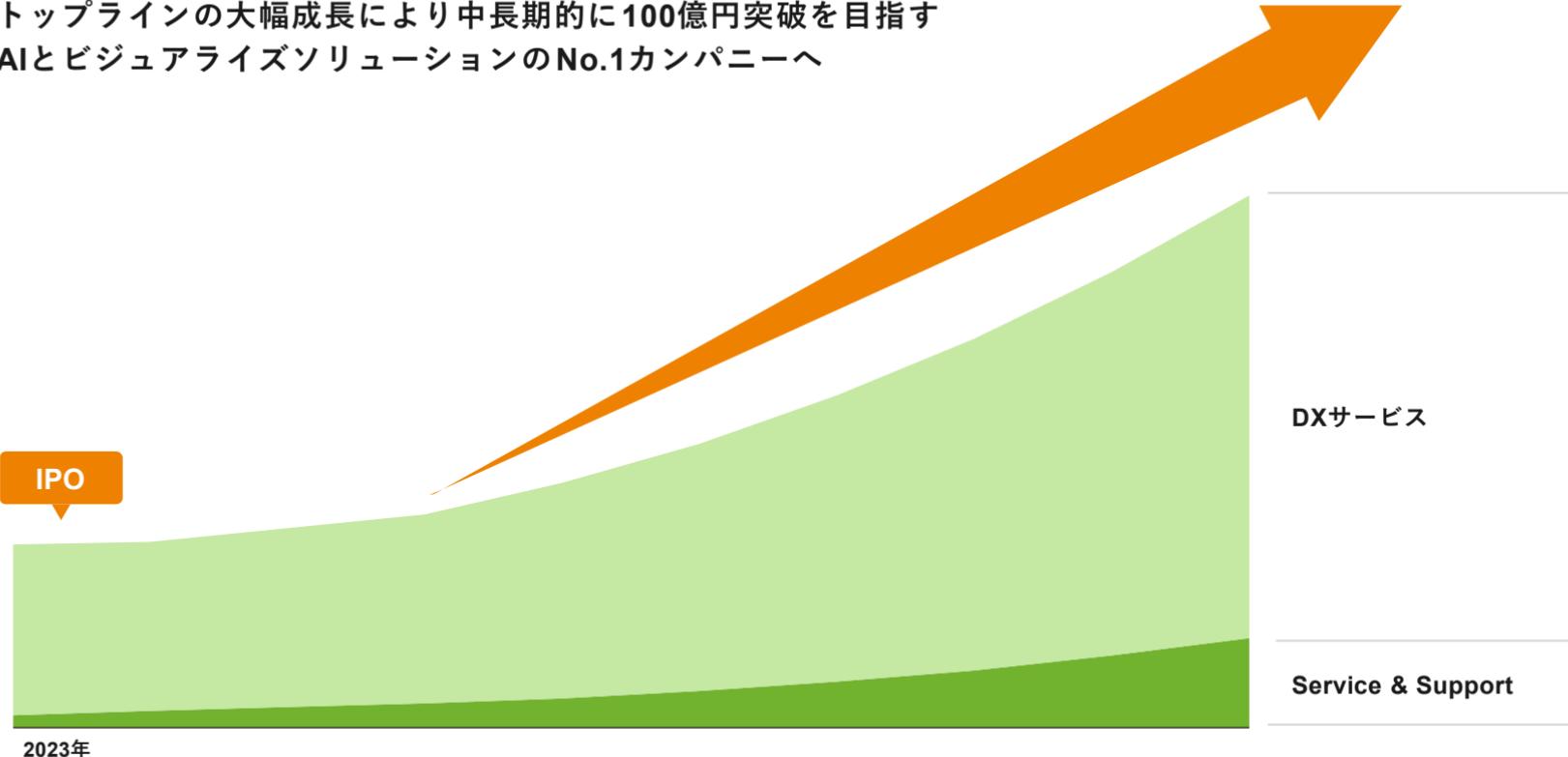
2027年5月期予想

- その他
- 情報・通信
- CSP
- 金融
- M&E
- 医療
- スタートアップ
- 自動車
- 製造業
- 研究機関
- 大学



事業成長イメージ

トップラインの大幅成長により中長期的に100億円突破を目指す
AIとビジュアライズソリューションのNo.1カンパニーへ



用語集

用語の定義については以下に記します

用語	用語の定義
AI	Artificial Intelligenceの略で、学習・推論・認識・判断などの人間の知能的な振る舞いを行うコンピューターシステムのこと
CAD	Computer Aided Design コンピュータを用いて設計や製図を行うこと
CAE	Computer Aided Engineering コンピュータを用いて工業製品の設計やデザインを行うこと
GAT	超高速最新GPUで高速化されたNVIDIA DGX システムを占有して試せるPoC環境提供サービスのこと 日本のモビリティ業界にEnd-to-EndのAI開発を支援することを目的とし、 株式会社ネクスティ エレクトロニクスと当社が共同で提供
M&E	メディア&エンターテイメントの略
エッジデバイス	IoTで使用される末端の機器のこと IoTとは、あらゆるものとインターネットに接続して互いに連動しあうシステムのこと
オンプレミス	コンピュータシステムを利用者側で保有・運用すること
仮想化	ハードウェアの物理資源を疑似的に分割する技術のこと
グローバルプロセッサメーカー	NVIDIA社、Intel社、AMD社などの、グローバルに展開している大手の半導体のカンパニーのこと

用語集

用語の定義については以下に記します

用語	用語の定義
グローバルベンダー	世界各国のハードウェア・ソフトウェアベンダーのこと
ビジュアライズ	XRやメタバースも含め視覚化・可視化のための技術の総称のこと
サブスクリプション	一定期間利用できるサービスに対して、定期的な対価を支払う仕組みのこと
推論	AI学習で構築したAIモデルを利用し予測や推理を行う作業のこと
ベアメタル方式 / ベアメタルクラウド	仮想化せずに物理サーバーをクラウド上で使用する仕組みのこと
ワークステーション	計算用や描画用など利用用途に特化した性能を持つ一般的なパソコンよりも高性能なコンピュータ

本資料の取り扱いについて

本資料は情報提供のみを目的として作成しています。本資料は、日本、米国、その他の地域における有価証券の販売の勧誘や購入の勧誘を目的としたものではありません。本資料の全部または一部を当社の承認なしに公表または第三者に伝達することはできません。

本資料には、将来の見通しに関する記述が含まれています。これらの記述は、当該記述を作成した時点における情報に基づいて作成されたものにすぎません。さらに、こうした記述は、将来の結果を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。実際の結果は環境の変化などにより、将来の見通しと大きく異なる可能性があることにご留意ください。上記の実際の結果に影響を与える要因としては、国内外の経済情勢や当社の関連する業界動向等が含まれますが、これらに限られるものではありません。

本資料に含まれる当社以外に関する情報は、公開情報または第三者が作成したデータから引用したものであり、かかる情報の正確性、適切性等について当社は何らの検証も行っておらず、またこれを保証するものではありません。



Advance with you 世界を前進させよう